

GEO 協議会 だより

26年1月1日

No.17

編集・発行：

～白・黒・赤を巡る旅～

美祢市ジオパーク推進協議会事務局

< 連絡先 : 0837-63-0055 >

第3回JGN全国研修会に参加しました！

11月21日(木)と22日(金)に、日本ジオパークネットワークの第3回全国研修会が、鹿児島県の霧島ジオパークで開催されました。今回のテーマは、「ジオガイドの養成」について！これから私たちが取り組んでいかなければならない課題の一つです。

ジオガイドとは、いったいどんなガイドさんなのでしょうか？

ジオガイドとは…

- 1) 人が好き
- 2) 地域が好き
- 3) なぜ・どうしてをそのままにしない
- 4) 何にでも興味を持つ
- 5) 愛がある

こんなところでしょうか(笑)

まずは、自分の住んでいる地域に興味を持って、知ることから始めてみませんか。これから本協議会では、地域住民の皆様により知っていただくために市民講座を開講したいと考えています。どなたでも参加でき、自分の住んでいるまちについて学べるよい機会です。ジオパークについて少しでも関心のある方はぜひ参加してみてください。



火口湖の一つである六観音御池

今回の研修会が行われた霧島ジオパークの特徴は、ズバリ「火山」です。霧島ジオパークで現在見られる景観や植物などには、霧島山の過去から現在に至る火山活動が影響しています。霧島山は、宮崎県と鹿児島県にまたがり、北西・南東方向に分布する20あまりの火山から構成されており、2011年に新燃岳で爆発的噴火がおこったのは、記憶に新しいと思います。研修会では、ジオガイドの案内を聞きながら霧島山の火口湖を巡るジオツアーに参加し、火山の成り立ちや植生について学びました。

霧島ジオパークには、今年の7月にリニューアルオープンした「えびのエコミュージアムセンター」という施設があります。そこでは、イラストや映像を多用した展示がなされ、霧島山の成り立ちを分かりやすく解説しています。ジオパークを学ぶ上では、エコミュージアムのような施設の存在は大きく、実際にジオポイントを見る前にこのような施設で成り立ちを学ぶことによって、より理解が深まります。

美祢地域には、秋吉台エコ・ミュージアム(右図写真)という秋吉台の成り立ちを模型等でわかりやすく解説している施設があります。その他にも、秋吉台科学博物館や歴史民俗資料館、大仏ミュージアムでも地域の成り立ちや文化について学ぶことができるので、ぜひ遊びに行ってみてはいかがでしょうか。



研修会の様子

四国西予ジオパークに行ってきました！

12月7日(土)に、今年の9月に日本ジオパークに認定された**四国西予ジオパーク**で、ジオパーク認定記念シンポジウムが開催されました。四国西予ジオパークは、愛媛県の南西部に位置し、標高0mから1,400mまでの多彩な自然に恵まれた地域です。海にはリアス式海岸、里には盆地、山には段丘やカルスト台地などの多様な地形が存在し、これらの大地から柑橘類や大根などのさまざまなジオの恵み(=農産物)が生み出されています。西予地域は、美祢地域と同じくカルスト台地を有するまちでもあり、秋吉台と四国カルストにはどのような違いがあるのか、この下の「教えて！じおくーん」のコーナーでわかりやすく説明します。

認定記念シンポジウムには多くの地域住民の方が参加しており、皆さんの関心の高さを伺うことができました。シンポジウムでは、日本ジオパーク委員会の委員で、首都大学東京の菊地俊夫教授による「ジオパークによる地域振興への貢献」と題した講演が行われ、今後のジオツーリズムの可能性と地域振興の関わりについて学ぶことができました。ジオツーリズムとは、いくつかのジオサイトを巡るジオツアーのことで、多様な地域資源と結びついたジオツーリズムは地域の関わりをより強いものとし、地域の振興や持続的発展を確かなものにする事ができるとの心強いメッセージをいただきました。この他にも、「ジオパーク活動が目指すもの～本格的な「協働」によるまちづくり～」と題した講演や、四国西予ジオパークにおけるこれまでの取り組み紹介、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH；先進的な理数教育を実施する高等学校等)に指定されている、愛媛県立宇和島東高等学校との共同研究についての発表等があり、今後ジオパーク活動を進めていく上で、四国西予ジオパークの取り組みは大変参考になりました。



シンポジウムの様子

第5回 教えて！じおくーん

地質学専門員の「じお」です！今回のテーマは「秋吉台と四国カルストは何が違うの??」です。



四国カルストに広がる景色

答えはいくつかあるのですが、大きな違いで言うと、1) **標高**、2) **窪み(ドリーネやウバーレ)の数**、3) **石灰岩ができた時期**の3つになります。1) 標高については、秋吉台が150~400m程度であるのに対し、四国カルストは1,400m前後と大きく異なります。2) 窪みの数については、両者の風景を眺めると、秋吉台の方が多いように思われます。3) 石灰岩のできた時期については、秋吉台の石灰岩がおおよそ3~2億5千万年前くらいです。一方、四国カルストの石灰岩については、まだよくわかっていないことが多いのですが、秋吉台のそれよりやや若いのではないかとされています。

では、なぜこのような違いが生まれたのでしょうか…？残念ながら、その理由はまだよくわかっていません。自分なりの答えを見つけに、ドライブがてら秋吉台や、ぶらり四国カルストの旅に出かけてみてはいかがでしょうか？